



大阪樟蔭女子大学 (大阪府)



創立100周年の伝統・多角的な生活文化の学び舎の名門女子大学

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

大阪樟蔭女子大学は、2017年に創立100周年を迎えた我が国有数の女子高等教育機関です。

1917年(大正6年)大正デモクラシーが花開くその時代、樟蔭学園は「現代女性のための理想的な学園の創造」を理念に誕生しました。

樟蔭女学校では深緑色の袴が制服でした。袴は、明治期から女性の制服として採用され、大正期には競ってそれを身につけました。本学では今も「深緑色の袴」がシンボルとして捉えられ、入学式、卒業式などの行事には多くの女子学生が袴を身につけ、伝統を大事にしています。

「女子大90キャンパス立地偏差値ランキング」において関西No.1の抜群の立地条件の下、2015年4月にはキャンパスがリニューアルされ、最新鋭の教育施設、設備を備えた理想的な教育環境で学ぶことができます。少人数を生かした、きめ細やかな学習指導とサポート体制が特徴です。また、正規外国人留学生が近年増加傾向にあり、国際交流が活発です。



(2022年5月1日現在)

教員数 : 98名
学生数 : 2,424名

② 国際交流の実績

本学は9カ国12大学と大学間協定を結んでいます。派遣留学プログラムとしてはこれまでにアメリカの大学への短期・中期・長期研修、カナダとポーランドの大学への短期研修、オーストラリアの大学への中期研修、ニュージーランドの大学への短期・中期研修、フィリピンと韓国の大学へのオンライン研修が行われています。ベトナムの大学への短期研修やマルタ、韓国の大学への中期研修も予定されています。

受入プログラムとしては、短期を中心に、日本語研修、多彩な日本文化研修の他、奈良や京都の文化遺産を見学するプログラムも提供しています。2012年度より日本語日本文化研修留学生を受け入れています。また、2014年度より春には、アメリカのカリフォルニア州立大学フレズノ校から短期留学生を受け入れ、日本語・日本文化研修留学生(以下、「日研生」とする)、本学学生と一緒に交流活動を行っています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2022年: 留学生数13人、日研生0人
2021年: 留学生数11人、日研生0人
2020年: 留学生数4人、日研生0人

④ 地域の特徴

本学は大阪府東大阪市の菱屋西という閑静な地域にあります。東大阪市は大阪市の東に隣接し、関西エリアの文化と経済の中心都市である大阪、奈良、京都、神戸へのアクセスの良い中核都市です。最寄り駅の河内小阪は大阪の中心地である難波や梅田へも電車で20分以内と便利です。歴史と観光の地で有名な京都、奈良へも電車で1時間足らずで行くことができます。東大阪は世界品質を誇る中小のメーカーが密集する日本のモノづくりの拠点でもあり、市内には本学を含めて4つの大学がある教育都市です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

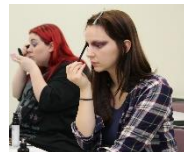
1) 本プログラムは、日研究生用の日本語と日本事情の特設科目と、日本人学生と共通の多彩な指定科目から構成されています。

2) 指定科目は、日本の「生活文化分野の科目」と、日本の伝統文化からサブカルチャーまでの多彩な「日本文化分野の科目」から構成され、興味に合わせて受講できます。本学の特色となる指定科目を受講する際に、それぞれの分野の専門家に相談することができます。

3) 「生活文化分野の科目」には、ファッションと化粧文化に関する多彩な授業があり、日本の身装文化をトータルに学ぶことができます。

服飾文化だけでなく、化粧文化について理論と実践の両面からアプローチします。化粧学を体系的に学べるのは本学だけです。

4) 「日本文化分野の科目」には日本の伝統文化に加え、現代の日本文化を理論と実践の両面から学べる科目が用意されています。



③ 受入定員

5名(大使館推薦のみ)

※受入れは2名以上から可

④ 受講希望者の資格、条件等

このプログラムの受講を希望する学生は、以下の要件を満たしているものとします。

- 1) 女子学生であること。
- 2) 日本語・日本文化に関連する分野を専攻していること。
- 3) 授業を理解するのに十分な日本語能力を有すること（N3以上の日本語能力を有していることを推奨する）。

⑤ 達成目標

近代から現在に至るまでの日本の生活文化の特徴について理解を深め、そのテーマに関して日本語で研究発表をし、レポートを書くことができるようになることを目標としています。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月中旬 ～ 2024年9月下旬
(2023年10月1日 ～ 2024年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月中旬：渡日（2017年は9月19日）、オリエンテーション

10月：大学祭

11月：秋の宿泊見学旅行

12月：クリスマスパーティ

1月：学外研修

5月：春の宿泊見学旅行、

アメリカ・カリフォルニア州立大学フレズノ校大学生との交流パーティ

6月：学外研修

7月：研究発表会

9月：修了式

9月下旬：帰国（2018年は9月24日・25日）



⑨ コースの修了要件

本プログラムは以下の要件を満たした者に修了認定を行い、修了証書と成績証明書を発行します。

- 1) 日研究生用の特設科目および指定科目を合わせて20単位以上履修していること。
- 2) 関心のあるテーマに関して研究発表（公開）を行い、その内容をレポートとして提出していること。

●本プログラムを修了の上、当初の研究課題が十分達成されており、早期に帰国しても差し支えないと判断された場合、日研究生が母国の大学での新学期開始の準備等のため早期帰国を希望する場合は、早期終了が認められます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修プログラム科目の特徴

日研究生用の日本語科目は、日研究生に特化した科目ですので、学生のレベルに合わせてカスタマイズできます。また選択科目は日本人学生と同じクラスで学びます。

2) 研修プログラム開設科目

I) 必須科目：日研究生用特設科目

科目名	秋期	春期
日本語A, B	30時間	30時間
日本語C, D	30時間	30時間
日本語・日本文化研究A, B	30時間	30時間
日本事情A, B	30時間	30時間

日本語A・B・・・日本語（聞く・話す中心）
日本語C・D・・・日本語（読む・書く中心）
日本語・日本文化研究A・B・・・研究発表・レポートに向けて
日本事情A・B・・・日本の生活文化、社会実情（学外授業含む）

II) 選択科目：学部学生と共通の選択科目

a. 生活文化分野の主な科目（各30時間）

◎「化粧の歴史」（30時間）の概要：日本における化粧の歴史を学びます。化粧の変遷を見ることを通じて、社会と人間の関係がわかります。

◎ その他の科目例：「服飾文化論」「化粧文化論」「グローバル化と食」「フードビジネス論」「現代ビジネス論」「女性のライフサイクル」「ジェンダーを考える」など

b. 日本文化分野の主な科目（各30時間）

◎「日本の食と文化」（30時間）の概要：日本の食文化と食事情についての講義を通じて、日本の食文化の変化、発展、多様性ととも、現代日本における食にまつわる様々な問題について学びます。

◎その他の科目例：「日本文化論」「樟蔭の窓」「日本文学概論」「日本書道史」「英語で学ぶ日本文化」「日本語学」「日本語教育学概論」「サブカルチャー論」「日本文化実習」など。また日本語教員養成科目も選択できます。

3) 見学、地域交流等の参加型科目

さまざまな学外授業に参加できます。寺院、神社、能・狂言・歌舞伎・文楽などの日本の伝統的な文化財や文化施設だけでなく、神戸ファッションミュージアムや京都マンガミュージアムのような施設で日本の現代文化を体験することができます。また地域の行事に参加し、地域の住民と交流します。

4) 日本人学生との共修等の機会

すべての選択科目は、日本人学生と共に学ぶことになっています。



⑪ 指導体制

- 学生は、学芸学部に所属します。本プログラムの履修方法等の指導は、日本語教育の専門家がいます。
- 興味のあるテーマに合わせてその分野の専門の教員が研究の助言を行います。
- 日本語学習のサポートは日本語教育の専門家が責任を持って行います。日本語能力試験対策の補講も実施しています。(2018年、N1に1名、N2に1名合格)
- 本学学生によるチューターが日本語学習や日常生活のサポートを行います。また、学内で友人の輪を広げる手伝いもします。学生生活一般については、樟蔭国際学習センターの職員(元日研生の職員を含む)がサポートします。



■ 宿舎

留学生専用の寮はありませんが、大学周辺の民間アパート(月40,000円から60,000円程度)を紹介することが可能です。

樟蔭国際学習センターで、ホストファミリーを紹介いたします。希望があれば、夏季休暇やお正月を利用して日本の家庭に短期間滞在することができます。

■ その他

学内の樟蔭国際学習センターでアルバイトが可能です。

- 職務内容: 英会話講師
- 事前に英語レベルチェックと面接を行います。
- 時間: 最長10時間/週、資格外活動届けの手続きが必要です。



■ 修了生へのフォローアップ

日研究生が自国の大学に戻ってからも、日本についての研究を継続してできるよう、プログラム修了後も相談できるような体制を整えています。またEメールにより、過去の修了生と自由にコンタクトが取れます。必要に応じて樟蔭国際学習センターといつでもメールを通じてやり取りができるようにしています。

修了生の声

2012年に大阪樟蔭女子大学に日研究生として留学し、母国の大学を卒業してから職員として戻ることができました。現在、樟蔭国際学習センターに勤務し、日研究生を担当しています。留学生活について質問・悩み等があれば、いつでも気軽に相談してください。



■ 問合せ先

<担当部署>

学校法人樟蔭学園 樟蔭国際学習センター

住所: 〒577-8550
大阪府東大阪市菱屋西4-2-26

TEL: +81-6-7507-2112 (直通)

FAX: +81-6-6723-8313

Email: kokusai@osaka-shoin.ac.jp

<ウェブサイト>

大阪樟蔭女子大学国際交流ホームページ

<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/international/>(日本語)

<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/english/students/index.html>(英語)

大阪樟蔭女子大学ホームページ

<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/>(日本語)

<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/english/>(英語)

日研究生ホームページ

<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/international/accept/nikkensei/>

